座間市立相武台東小学校　　NO.16　　2023.7.20（木）

校長室だより

校長　山﨑　聡子

子供たちの成長

私が、若い頃、奥田先生から聞いたお話です。

「ある時、仏様が道ばたに立っていらっしゃると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ荷車を引いて通りかかった。ぬかるみがあって，車はそこから抜け出せない。男は懸命になって引っ張っても抜け出せない。男は汗びっしょりになって苦しんでいる。仏様は、しばらく男の様子を見ていらしたが、やがて、ちょっと指でその車に触れられた。すると車はすっとぬかるみから出て男はからからと車を引いて去っていった」

奥田先生は、「男は仏様の力にあずかったことを永遠に知らない。自分が努力をして、抜け出したのだという自信と喜びを持って、車を引いていったのだ」とおっしゃいました。

（教えるということ：大村はま 著）

上記の内容は，私自身が子供たちと関わる上での原点になっている考え方です。自分の力で考えて，物事を解決することができたと子供たち自身に実感できるように支援していくこと，そして，子供たち自身が喜びを実感した時に「自分で解決できたんだね。」・「よく考えたね。」と，共に成長を喜び自信に繋げていくことこそが，大人である私達が子供たち一人一人を伸ばしていく上で大切にしていくべき関わり方であろうと思っています。

子供たちは，大人に許可を求めたり，答えを求めたりすることがあります。でも，そのような時に，「あなたはどう考える」・「どうすればいいと思う」等と子供たちに問い返し，子供たちがどのように動いていくのか見守り，自己決定させていくことを意識して行っていきたいと考えています。解決にたどり着くまでに時間はかかるかもしれませんが，子供たちがこれからの社会の中で生き抜く力を育んでいく上で，自分で考えることや主体性や達成感を引き出すことは大切なことと思います。

夏休み期間，学習の取組，生活での取組等，どのように過ごしていくとよいのか子供たちに考えさせ，計画を立てていただければと思っています。

本日で１学期が終了いたします。今年度は，昨年度と異なり，運動会を始め，通常通りの形に少しずつ戻しながら活動することができました。当たり前の日常を過ごすことができるということは，本当に有難いことであると感じる日々でした。

学習の積み上げも行ってまいりました。本日子供たちは，あゆみを持ち帰ります。1学期間の子供たちの学びの足あとが一つの形となったものです。子供たちの頑張りや思いを受け止めて子供たちを励ましていっていただければと思っています。

また，保護者の皆様，地域の皆様には，子供たちの安全を守ることに多くの力をいただいたこと，充実した教育活動を進めるにあたって，御理解と御協力を賜りましたこと，心より感謝申し上げます。

２学期以降も，子供たちのよりよい成長を教職員一同支援してまいります。8月29日に元気な子供たち全員と会えることを楽しみにしております。